



歌舞伎好きは必携のロングセラー。大幅リニューアル！戦後～現在までの人気役者紹介や最新情報、演目ガイドもたっぷり。歌舞伎の「基本の『き』」と楽しみ方が、この1冊で丸わかり。豊富なイラストとわかりやすい文章で、歌舞伎の魅力を徹底解剖！観劇の方法や、ストーリー・衣装・髪形・化粧など知っておきたいお約束はもちろん、歌舞伎に関する「知っておきたいあれこれ」を、分かりやすく解説しています。



「伝える」ではない、「伝わる」言葉や、文章を生み出すために、小説家はいつも何を考えているのか？『地図と拳』『君のクイズ』『火星の女王』直木賞作家・小川哲が、どうやって自分の脳内にあるものを言語化するかを言語化した、目からウロコの思考術！



anan人気連載12編＋書き下ろし12編、待望の書籍化5年連続本屋大賞ノミネートの最注目作家・青山美智子が贈る優しさ成分120%の物語



織田信長による天下布武の軍団が日本全土を侵略していくなか、その怪物は戦場にあられた。名を丹後の守護大名、一色義員の嫡男・五郎と言った。17歳の青年は、父亡き後の圧倒的不利な状況下で、凄惨な戦闘を繰り広げ、その場以待てた全ての人間を恐怖に陥れる一戦国時代の若き武将・一色五郎。17歳で戦場に立ち、織田信長の前に突如現れた“怪物”が、いま令和に蘇る！



古代ギリシャ時代から現代まで、言葉を持つのは人間だけでなく決めつけられてきた。しかし、シジュウカラたちは、それが間違いであることを教えてくれた。人間には人間の言葉があるように、鳥には鳥の言葉がある。シジュウカラは言葉を使って文を作る。世界を驚かせた研究者が綴る、大発見に至るまでの鳥愛あふれる研究の日々。



織田信長に丹後を支配するように命じられた智将・長岡（細川）藤孝、猛将・忠興父子は、決死の覚悟で一色五郎と戦う。味方にも秘策を明かさぬ一色五郎が進もうとする先は、果たして織田家の壊滅か、一族の破滅か。



大学一年生の市倉小春は漫画家を目指しつつ、大阪府豊中市にあるパン屋“ノスティモ”でアルバイトをしていた。あるとき、同じパン屋で働いている親友の由貴子と一緒に行くはずだったライブビューイングをドタキャンされてしまう。誘ってきたのは彼女のほうなのにどうして？疑問に思った小春は、彼女の行動を振り返り、意外な真相に辿りつく…。2025年第23回『このミステリーがすごい！』大賞 大賞受賞作



平和の裏に隠された真実とは。謎が謎を呼ぶ、新次元の精霊ファンタジア！少女ナオミは、風の精霊を統べる皇帝から「私の寵姫の座を狙って見ないか？」と突然誘われる。皇帝の後宮には皇后と愛妾（つま）がおり、彼の胸には皇后の蓮の色に似ている緑の宝石を選び抜いた首飾り「皇后の碧（みどり）」が常に輝いていた。訝りながら己が選ばれた理由を探るうち、ナオミは後宮が大きな秘密を抱えていることに気づくが……



あの子どもはどこにいったんだろう。案外近くにいるんだろうか。そこがどこであっても、あの子のいる場所がどうかあたたかく優しい場所でありますように。現役看護師・イラストレーターの中山有香里が描くペットや人間たちの「その後」の物語



ヒマラヤ山中で発掘された二百年前の人骨。大学院で遠伝人類学を学ぶ悠がDNA鑑定にかけると、四年前に失踪した妹のものと同じだった。不可解な鑑定結果を担当教授の石見崎に相談しようとした矢先、石見崎は何者かに殺害された。古人骨を発掘した調査員も襲われ、研究室から古人骨も盗まれた。悠は妹の生死と、古人骨のDNAの真相を突き止めるべく動き出すが、予想もつかない大きな企みに巻き込まれていく。2025年第23回『このミステリーがすごい！』大賞文庫グランプリ受賞作。



ある日、真っ黒い服を着た男が子どもを訪ねてくる。「私は涙を集める人なんだ」という男は、大きな黒い箱を取り出し、銀の糸で刺繍されたリボンを解くと、大小、かたちも色もさまざまな、宝石のような涙を子どもに見せた。そして、このどれでもない、この世で最も美しい「純粋な涙」を探していると話す。男は子どもがそれを持っているのではないかと言うのだが――。ノーベル文学賞作家ハン・ガンがえがく、大人のための童話この世で最も美しく、すべての人のこころを濡らすという「純粋な涙」を探して



東京・下落合、戦火を逃れた邸宅に集められた4人の女性。GHQの一声で、彼女たちの人生を変えたハヤメチャな同居生活が始まった。1946年11月、日本民主化政策の成果を集るGHQがはじめた“民主主義のレッスン”。いやいや教師役を引き受けた日系2世のリユウ。地位と邸宅を守るためこの実験に協力した仁藤子爵夫人。生徒として選ばれた個性豊かな4人の女性――それぞれの思想が交錯する中、風変わりな授業が幕を開ける。希望と不安、そして企み……。波乱の展開が感情を揺さぶる超大作！



性被害の告発が開けたバンドラの箱。文芸誌元編集長の木戸悠介。その息子が高校生の越山恵斗。編集部員の五松。五松が担当する小説家の長岡友梨奈。その恋人。別居中の夫。引きこもりの娘。ある女性がかって木戸から性的搾取をされていたとネットで告発したことをきっかけに、加害者、被害者、その家族や周囲の日常が絡みあい、うねりはじめる。出版界を舞台に性、権力、果力、愛につき動かされる人間たちのドラマは予想もつかないクライマックスへー。



県立菅原高校の入学式当日、同じクラスになった安以加ら「平安時代に興味ない？」と葉は声をかけられた。「平安部を作りたい」という安以加の熱意に入部を決めるが、新部を創設するには五人の部員が必要だった。あと三人（泣）。知恵をしばって部員を集め、平安部は誕生するが、はたしてどんな活動が始まるのかー！？



小学6年生の十和は、家族の幸せの形がわからない。楽しい母、やさしい父、かわいい妹。それなのに、どうして心がこんなに荒むのか。苛立つ十和に対して、母はなぜ強引に中学受験を決めようとする。このわからぬ気持ちをぶつけられるのは、LINEで繋がる「あの人」だけだ。ここから逃げ出した。その思いは大坂で一人暮らしする祖母へと向かい、十和は大坂の私立中学に進む決意をする。4人が離れて暮らすことに父は反対するが、ある条件を十和の希望を受け入れるのだった。バラバラになりそうな一家は、この問題を解決することができるのか？中学受験を通して家族の成長を描く感動作。



この古地図、何かがおかしい？謎の死を遂げた祖母、海沿いの廃集落、不可解なトンネル事故…やがて浮かび上がる「7体の妖怪」の秘密とは！？“変な家”の栗原が青年時代に遭遇した着かつてないマップ・ミステリー開幕！！



前科持ちのミリーが手に入れた、裕福な家庭でのハウスマイドの仕事。だが、この家は何かがおかしい。不可解な言動を繰り返す妻ニーナと、生意気な娘セシリア。夫のアンドリューはなぜ結婚生活を続けていられるのだろうか？ミリーは屋根裏部屋を与えられ、生活を始める。しかし、この部屋には…。そして、家族にまつわる真相が明かされるや、それまでに目にしたものすべてがひっくり返る。現作と衝撃のエンタメ小説



終電を逃したアラフォー女性、危篤の母親の病院へ急ぐ息子、崖っぷちのプロ野球選手…タクシオ運転手は、目的地までお客さんの人生にそっと寄り添う。「人と関わる仕事」への誇りを抱き、誠実に仕事に臨む高間夏子と東央タクシオの同僚たちを描く人気シリーズ 最新刊！



奥に揺れる柳並木と円筒形のポストのすぐそばに佇む文房具店・四宝堂。創業は天保五年と古いが、豊富な品揃えと店主・宝田現の人徳により今なお地元の人に愛される銀座の名店だ。そんな四宝堂には、今日も様々なお客が訪れて……。父の急逝により何の準備もないまま実家の旅館を継ぐことになった青年に、新入部員の勧誘に頭を悩ますキャバテンの中学生など。困りごとを抱えたお客たちを、ミステリアスな店主が今日も優しくもてなしていく。「ずっと続いてほしい」と願う声が続かない、大人気シリーズ第6弾。



物を食べることには大いなる神秘と驚異が潜んでいる。性欲、好奇心とも無縁ではなく、そもそもが猥雑で滑稽なものであろう。荷風、吉行淳之介、筒井康隆ほか、食にまつわる不安と喜び、恐怖と快楽を表現した傑作の数々を収録。隠れた食のバイブ



県立第一高校に通う横島朱里ダイアナは、名前の頭文字をとって「マッド (MAD)」と呼ばれている。圧倒的なその美貌は、周囲のあらゆる感情を刺激し、波乱を巻き起こしてきた。敵視してくる女子グループ、煽る男子勢、勝手に炎上するSNS、学園祭の入場制限…。「これ、マッドのせいだよ」「調子乗ってんじゃねえよ！」心ない言葉を浴びせるクラスメイトたちが、マッドが心の中に抱え込む怒りと哀しみにふれたとき、自らの偏見とエゴに気づかされて一。見た目から逃れられない若者たちの葛藤を描く！



自閉症者は何をを考えているのか？世界がどういう風に見えるのか？葛藤や喜びなど、その心の声を真つすぐに書いた自伝の登場！15歳、自閉症当事者が書き下ろすみずみずしくも胸に迫るエッセイ。文部科学大臣賞を受賞した作文「自閉症を持つ私から見た日常」の作者が綴った自身の記録。



大東亜戦争で日本軍はなぜ敗北したのか。戦史研究に初めて社会科学的な分析を導入し、ノモンハン、ミッドウェー、ガダルカナル、インパール、レイテ、沖繩の六作戦を失敗事例として学際的に検証。日本軍の組織特性の解明を通じて、日本社会にはびこる組織的病理を剔抉し、自己変革の必然性を提起する。



この世には不思議なことなど何もないのだよー古本屋にして陰陽師が憑物を落とす事件を解きほぐす人気シリーズ第一弾。東京・雑司ヶ谷の医院に奇怪な噂が流れる。娘は二十箇月も身籠ったままで、その夫は密室から失踪したという。文士・関口や探偵・榎木津らの推理を超え噂は意外な結末へ。



頭にぼっかり穴の空いたバケモノが人を攫って、穴の中に吞み込んでしまう。バケモノの名は「アナツラさま」。一ある地方都市で女性が相次いで行方不明になるなか、そんな噂が囁かれるようになった。行方不明者の捜索依頼を受けた探偵・小島遊穂香は、都市伝説の裏に連続殺人鬼がいると睨み、調査を進めるが…。一方、「アナツラさま」と呼ばれる一連の事件の犯人は、想定外の事態に陥っていた。2026年第24回『このミステリーがすごい！』大賞文庫グランプリ受賞作。



時代に翻弄された商家のドラマ。栄華を極めた港町・中之島。風光明媚な西宮、芦屋の世界。



元公安調査庁・藤谷昌敏氏推薦！元防衛省第5次情報部長・外園健一朗氏推薦！マスコミの報道からは得られない…「国際政治の舞台裏」あなたはいくつ知っていましたか？ウクライナへの支援物資が闇市場に？北朝鮮は200兆円の資源大国？日本の政治はスイスで決められる？物価高は仕組まれている？世界の危険地帯を渡り歩いた情報分析のプロ・丸谷元人が語る…「日本人だけが知らない世界の常識」

校長先生より大阪市史や都島区史等の貴重な資料を多数寄贈いただきました。又、岡本先生、谷澤先生からも沢山の文庫本を寄贈いただきました。図書館入ってすぐの右向き棚に並べておりますので是非お読みください。また現在図書館ではNUMBER等を含めた古い雑誌の持ち帰りコーナーを設けていますので、持ち帰りコーナーの雑誌は遠慮なく何冊でも自由に持ち帰ってください。

又、図書館に入れて欲しい本があれば、図書館前や図書館内に置いているリクエスト用紙にどんな書いて、図書館前のBOXに入れるか、総務部の先生か加藤まで申し込んでください

